と「ずいずいずっころばし」などの歌に合わせた手遊びで交流を図るなどなごやかな雰囲気で行われました。

昭和六十年三月の結成以来毎年発表会を続けており、塩田直美会長は「去年二十年の節目を迎え、初心に戻り新たにスタートしました。今日も駆けつけて指導、協力いただいている方々や聴きに来ていただいた村民の皆さんに感謝しています。これからも見守り続けてください。聴きに来てください。」と挨拶していました。

会場の皆さんと手遊びを交えて交流する

雪と遊ぼう

財田自然体験ハウス

二月十九日、財田自然体験ハウス事業「雪と遊ぼう」が行われ、大人八名（スタッフ含む）子ども五名が参加し、イグルーやスノーランタンを作りました。

イグルーとは、イヌイットの人たちが雪のブロックで作る簡易住居で、雪をブロックのように切り出し、ドーム状に積み上げ造られます。

雪を切り出し積み上げる「イグルー」作り

大人の参加者たちが、スノーソー（雪用のこぎり）で雪のブロックを切り出し、運び、次々と積み上げていき、隙間を雪で埋めて、わずか一時間余りで原形が完成しました。それまで遊んでいた子どもたちを呼び寄せると、雪のドームの中から雪を割って、あいた穴から人が這い出でき、それを見た子どもたちは大喜びでした。

その後、入口を作り、イグルー内部の床部分を掘ると完成しました。中は大人が立てるほどの空間があり、外観に比べ広く感じられました。

また、参加した皆さんは完成したイグルーの中で、おしることをいただくなどし、冬ならではの楽しい雪遊びを堪能しました。

色々な楽器でコンサート

寿大学第三講コンサート

二月二十一日、総合センターで今年度の最終講となる寿大学第三講が、留寿都高等学校教諭の鈴木尚さんを講師として迎え、色々な楽器を使ったコンサートが行われました。

鈴木尚さんは、山形県の出身で少年の頃からギターを弾き歌っていたそうで、大学生の時にはマンドリンを、三十を過ぎてからはバイオリンを習得し、今では何種類もの楽器を演奏できますが、チェロは置物になっているそうです。また、現在も教鞭を執る傍ら、各地を歌い周るなど音楽活動も盛んに行っています。

色々な楽器を使って演奏した鈴木さん

コンサートでは、ビートルズのレット・イット・ビーを和訳で歌い、故郷山形の民謡の真室川音頭、オートハープやハーモニカの演奏など、各楽器の説明や、色々な話などを交えてバラエティーに富んだコンサートを披露しました。